「高知県橋梁会 令和７年度第１回研修会」報告

高知県橋梁会理事　西川 準二

令和７年度 第１回研修会が 2025 年４月 21 日（月）に公益社団法人土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催により，高知市本町の高知会館「白鳳の間」で開催された。

研修会では，４テーマについてそれぞれ講演がなされた。

年度初めで何かと忙しい時期にも関わらず過去最高の 182 名の参加があり，どの講演も大変興味深い内容で非常に有意義な研修会となった。また研修会終了後定例総会を行い，会場を「飛鳥の間」に移し「高野広茂会員の米寿を祝う会」を開催した。

■研修会(13:30～17:00)

研修会の開催に先立ち，右城猛会長より挨拶が行われた。会員数が減っている各団体が多い中，高知県橋梁会は発足した当時の会員数が 16 社だったが，本年度は 67 社となり年々増加している。また参加人数も橋梁会単独開催では過去最高の 182 名の参加があり本当にありがたいと感謝を申し上げた。そして高野広茂会員が米寿を迎えられた祝いの言葉を述べ参加者全員に生涯を綴った「はじめは小さな種だった」が配布された。

また，本日の４名の講師の皆様へのお礼と今年最初の講演が，有意義で実りのある研修会となる事を祈念しての開催挨拶となった。

右城会長による開会の挨拶

１番目の講演は，構営テック(株)社長 黒田昌孝氏より「高知県企業のためのＤＸ実現方法」と題し，ＤＸ＝デジタル(IT 化)トランスフォーメーション(変化)についての紹介があった。

最初にＤＸがなぜ必要か，ＤＸ技術がどのように変遷してきたか，また現在はＡＩ第３次ブーム中であり，膨大な情報とその処理が可能となり急速に進化している旨の説明があった。

次に世界の取組み状況が紹介され，日本はデジタル競争力ランキングでは 64 か国中 32 位で過去最低レベルに下がっており，また日本の 47 都道府県の中で高知県は 39 位であると説明があった。

建設業界は 2045 年には，建設業全体で従事者が 2020 年度の半数になると予測されており，建設業界のＤＸ化が今後の課題でもありビジネスチャンスでもあると説明された。具体的には，建設ロボット，重機の自動化･遠隔化，BIM/CIM，デジタルツイン(３ＤCAD や VR/AR)，生成ＡＩ等が紹介され講演を終了した。　（13:40～14:20）

黒田昌孝氏による講演（１番目）

２番目の講演は，日特建設(株)大阪支店技術部 池野綾氏より「吹付作業を機械化した吹付のり面の省力化技術(スロープセイバー)」と題し，法面吹付作業を機械化した工法スロープセイバーの工法概要や施工方法の説明があった。

この工法は工事現場における，労働者不足，工期短縮，安全な労働環境といった課題を解決するために開発されたと説明された。バックホウに取付けた吹付アタッチメントによるロボット施工で短時間に施工面積を伸ばすことができる。また法面施工支援システムを採用することで吹付厚の自動計測が可能となり大幅に精度管理が良くなったと説明された。

吹付枠工の吹付作業では，ワクラクショット工法による機械化施工を行うことで，吹付作業の負荷軽減や人員不足の解消，コスト削減等に大きく寄与すると説明された。　（14:20～15:00）

池野綾氏による講演（2 番目）

３番目の講演は，ヒロセ補強土(株) 擁壁工指針執筆者 水谷美登志氏より「擁壁設計の疑問に応える」と題し，平成 24 年度版の擁壁工指針の記述内容に対する質問事項への見解の説明があった。また水谷氏は現在改訂中の「道路土工構造物技術基準」の執筆にも携わっているとのことである。

擁壁工指針の記述箇所における疑問や解釈等の質問についてその見解を一つ一つ丁寧に説明された。例として，擁壁に後方載荷がかかる場合は試行くさび法やクーロン式では計算できないが，改良試行くさび法であれば計算できるので適用するのが良いと説明された。

擁壁の根入れ深さの考え方では，擁壁高が低く基礎地盤が岩盤等で支持力が十分に確保されかつ洗堀等のおそれがないような場合では，総合的に判断して根入れ深さを設定すれば良いと説明された。

控 35cm の間知ブロックを控 50cm 以上にした大型ブロック積擁壁の考え方は，令和 3 年に土木研究所から公表された「大型ブロック積み擁壁の設計･施工･維持管理の高度化に関する共同研究報告書」に準拠してもかまわないと述べ，次回の擁壁工指針改定においては，この報告書の成果を取り込む予定であると述べられた。　（15:15～16:15）

水谷美登志氏による講演（3 番目）

４番目の講演は，元・四国がんセンター呼吸器内科医長 博士(医学) 原田大二郎氏より「健康長寿のために，今始めるべき事」と題し，がんにならない健康法やがんになった時の治療法等の説明があった。

がんにならないためには先ず生活習慣を見直さなければならないと説明された。具体的には

1） 栄養･食生活を見直す･･･適正体重を維持，塩分控えめでバランスの良い食事を摂ること。
2） 適度な運動をする･･･日常的に歩く(成人 8,000 歩/日･高齢者 6,000 歩/日)。
3） 休養･十分な睡眠をとる･･･60 歳未満 6~9 時間，60 歳以上 6~8 時間。
4） 飲酒量を守る･･･1 日適正アルコール摂取量男性 40ｇ/日(日本酒 1 合半，ビールなら中瓶

2 本)，女性は男性の半分。

5) 喫煙は･･･健康に悪い生活習慣の王様です。

6) 歯･口腔の健康･･･よく噛んで食べる，歯周病にならないように予防すること。

が挙げられた。

がんになった時の治療最前線として免疫療法の説明があった。がんになった時にかかれば良い高知県内の病院は，がん診療連携拠点病院等として･･･高知医療センター･あき総合病院･高知大学医学部付属病院･高知県立幡多けんみん病院が挙げられた。またがんゲノム医療拠点病院等として･･･高知医療センター･高知大学医学部付属病院があると説明が行われた。

(16:15～16:55)

原田大二郎氏による講演（4 番目）

研修会では，参加者が熱心に聴講するとともに各テーマに対して活発な質疑応答があった。

熱心に聴講する参加者

質問する参加者

西川理事による司会進行

最後に，森下副会長による閉会の挨拶では，本日の講演者や参加者への謝辞と次回研修会の開催予定の紹介などがあり，研修会を終了した。 (16:50～17:00)

森下副会長による閉会の挨拶

■定例総会（17:00～17:25）

研修会終了後に同会場で定例総会を開催した。正会員 65 社のうち 55 社の出席があった。

定例総会では令和 6 年度の事業報告･収支決算報告･監査報告，令和 7 年度の事業計画･収支予算案等が満場一致で承認された。また，本年度の新入会員として(株)第一技研とＵＩＣコンサルタント(株)の 2 社の紹介があった。

今年度は役員改選期であり，新任理事として(株)ロイヤルコンサルタントの大西氏が就任し，その他 8 名の理事は留任することで承認された。

定例総会の様子

■高野広茂会員の米寿を祝う会

(17:30～19:30)

定例総会終了後，会場を「飛鳥の間」に移して高野広茂会員の米寿を祝う会を開催した。参加者は講師の方々を含めて 78 名と盛況であった。

右城会長による高野会員の業績や自伝を綴った「はじめは小さな種だった」を書いた経緯等の紹介がされた後，高野ご夫妻に花束と記念品の贈呈が行われた。また高野会員から高知県橋梁会へのお礼の挨拶がなされた。

その後高知県橋梁会会員で愛媛大学の矢田部先生による乾杯の音頭で祝う会を開始した。

歓談の途中では「はじめは小さな種だった」の構成･執筆者である依光孝明氏が紹介され，本を書いた際の裏話やその他エピソードが披露され会場を沸かせていただいた。

中締めの挨拶は，高知県橋梁会森下副会長より，高知県橋梁会のさらなる発展と参加された皆様のご健勝とご多幸を祈念して一丁締めでお開きとなった。

右城会長による開会の挨拶

高野氏への記念品贈呈

高野ご夫妻への花束贈呈

歓談の様子

高野氏の挨拶

本の構成･執筆者 依光孝明氏のお話

矢田部先生による乾杯

歓談の様子

歓談の様子

談笑の様子

森下副会長による中締め

■あとがき

本研修会は 182 名，高野広茂会員の米寿を祝う会も 78 名と非常に多くの皆様に参加いただき，充実した研修と有意義な懇親を深める事が出来た。

高知県橋梁会では，更なる研修内容の充実と会員各社の発展に寄与すべく引き続き積極的に活動を続ける所存であり，今後も会員各社のご協力をお願い申し上げる次第である。